令和6年度

歯学生共用試験の実施状況

Common Achievement Tests Organization
CBT・OSCE
CATO

1．令和6年度 実施時期の月別分布

CBT

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大学数	4	7					1	9	8	

OSCE

	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
大学数	2	9					5	9	4	

受験学年：　6～7月は5年生、12～2月は4年生

2．令和6年度 合格状況等　CBT/OSCE　不到達者

CBT

本試験出願者数（欠席者含む）：2,346　　不到達者数：568　　不到達率：24.2

本試験受験者数（欠席者除く）：2,297　　不到達者数：568　　不到達率：24.7

再試験出願者数（欠席者含む）：568　　不到達者数：265　　不到達率：46.7

再試験受験者数（欠席者除く）：560　　不到達者数：265　　不到達率：47.3

OSCE

本試験出願者数（欠席者含む）：2,315　　不到達者数：19　　不到達率：0.82

本試験受験者数（欠席者除く）：2,307　　不到達者数：19　　不到達率：0.82

再試験受験者数：18　　不到達者数：0　　不到達率：0

追試験受験者数：5　　不到達者数：0　　不到達率：0

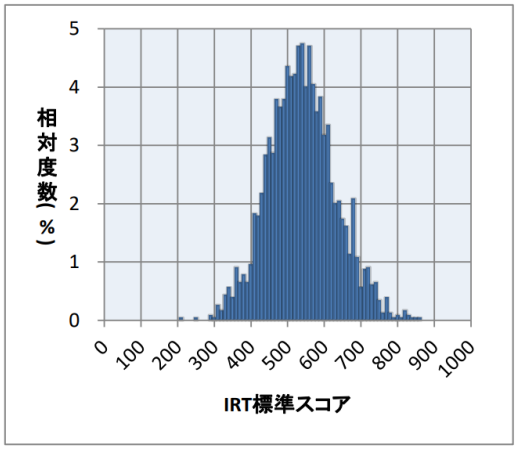
・先に受験したCBTの結果が最終的に不到達だとわかってしまえば、OSCEが再試験対象になっても再試験を受験しなかった例もある。

3．令和6年度歯学生CBT　月別基本統計量

表2. 本試験の月別IRT標準スコアとテスト得点（素点：100点換算）の基本統計量

実施年月	IRT標準スコア							テスト得点（素点：100点換算）	
	受験者数	平均点	標準偏差	最高点	最低点	中央値	前年度平均点	平均点	前年度平均点
2024年6月	184	591	82	778	366	587	583	78.7	79.0
2024年7月	328	581	86	838	312	584	578	77.8	78.4
2024年8月	—	—	—	—	—	—	593	—	79.8
2024年12月－2025年1月	1,026	518	90	787	219	516	549	70.6	75.3
2025年2月	759	551	89	863	296	540	544	74.5	74.9

図1-1. IRT標準スコアの分布(計)



到達基準

全国統一の到達基準は、IRT標準スコアでどのくらいのレベルに設定するのが適切かを検討するため、各大学から委員を集め、Bookmark法という基準設定法を用いて検討した。その結果、IRT標準スコアで481を到達基準として定めた。

４．令和6年度歯学生OSCE　カテゴリー別到達判定結果

集計対象受験者数（人）：　2,311

	不到達者数（人）	不到達者率（%）
コミュニケーション	2	0.09
医療安全	0	0.00
感染対策	10	0.43
基本的診察・検査・技能	8	0.35
OSCE全体	19	0.82

臨床実習前 OSCE の到達判定

① 臨床実習前 OSCEで、評価能力である「コミュニケーション」、「医療安全」、「感染対策」、「基本的診察・検査・臨床技能」の全てにおいて到達基準に達したことをもって到達と判定する。
②「コミュニケーション」に関する評価項目は医療面接領域の課題に集約されているため、医療面接領域の単独課題で到達判定を行う。
③「医療安全」、「感染対策」、「基本的診察・検査・臨床技能」に関する評価項目は「歯科治療に必要な診察と検査」と「基本的臨床技能（４領域）」を合わせた5領域に分布しているため、各領域から１課題、計5課題全体で到達判定を行う。5課題全体の各能力の項目加算方式による合計点（得点率）が同能力の到達基準点（得点率）の合計以上の場合に到達と判定する。

5．令和6年度　実施時期別 CBT・OSCE スコア

	CBT		OSCE	
	前期	後期	前期	後期
	11大学	18大学	11大学	18大学
対象数	512	1785	509	1802
最大値	838	863	98.7	100
最小値	312	219	55.6	58.7
平均値	585	533	89.6	89.1
標準偏差	85	91	5.17	5.66
中央値	585	529	90.4	90.1

（IRT標準スコア）

CBT到達基準：481

６．評価者について

令和６年度からの共用試験公的化を踏まえ、令和５年度から評価者の標準化を図るために、全国共通の基準による認定制度を開始した。

歯学生共用試験臨床実習前客観的臨床能力試験の目的

歯学生共用試験臨床実習前客観的臨床能力試験（以下「歯学生共用試験OSCE」という。）は、歯科医師法に基づき、歯学を専攻する学生が、臨床実習を開始する前に適切な知識と技能・態度を有しているかを評価するために行う。

公平・公正な試験を実施するために、歯学生共用試験OSCEにおいては、機構が作成した共通課題を実施することに加え、機構から認定された機構派遣監督者と評価者認定講習会を修了した他大学の外部評価者を派遣する。大学ならびに機構はそれぞれの役割を分担し、協同しOSCEの円滑な運営に努める。

（OSCE実施要項抜粋）

公的化以前は機構が外部評価者養成WSを実施し、WS修了者を外部評価者として派遣した。認定試験が課されていないため、評価能力は担保されていなかった。

６．評価者について

・評価者の種類　（OSCE実施要項抜粋）

⑴　評価はすべて認定評価者が行う。認定評価者は内部評価者と外部評価者からなり、１名の受験者に対して２名の評価者が評価を行う。

⑵　突発的な事案に備え、余裕のある人数を確保しておくことが望ましい。

・評価者に係る実施上の配慮

⑴　実施責任者は評価者が評価に専念できるように配慮すること。

⑵　評価者の組み合わせについては、特定のペアの組み合わせにならないように配置すること。

⑶　全ての受験者が少なくとも１回は外部評価者に評価されるように評価者を配置すること。

６．評価者について

・外部評価者（課題評価責任者）

⑴ 外部評価者は、OSCEの評価の公平性・客観性・透明性を担保するため配置される。

⑵ 外部評価者は、他大学の教員で構成され、課題ごとに１名配置される。なお、全国統一基準による評価を実施するために課題評価責任者として機構が選任する。（令和6年度）

⑶ 各課題において評価の標準化を担当する。また、試験実施前点検において、試験環境を確認する。

⑷ 外部評価者は、機構が主催する歯学生共用試験OSCE評価者認定講習会を修了し認定試験に合格した者（認定評価者）とし、外部評価者派遣依頼の手順に従い、機構が決定し実施大学に派遣する。

⑸ 実施状況について、実施大学ならびに共用試験実施評価機構に対し、適切なフィードバックを行う。

６．評価者について

・外部評価者の派遣方法について

　歯学生共用試験OSCEにおいて、令和6年度まで外部評価者は各課題に1名ずつの派遣であったが、令和7年度より各試験室に１名ずつ派遣することに変更となった。そのため各大学では、受け入れる外部評価者とほぼ同数の認定評価者を外部へ派遣することとした。評価体制は、2名の認定評価者とする。

　これまでの派遣依頼方法では、推薦された認定評価者の個人的な都合で急遽派遣できなくなるなどの事案が散見されていた。そのため、各大学に派遣依頼を行う際には、派遣先大学および担当予定の課題を予め指定した上で、必ず対応可能な認定評価者を推薦していただくこととした。

- 令和6年度 評価者認定講習会の実施

第19回評価者認定講習会：　徳島大学　（令和6年４月）
第20回評価者認定講習会：　広島大学　（令和6年４月）
第21回評価者認定講習会：　岡山大学　（令和6年４月）

前年度未実施の3大学

第1回評価者認定講習会：　朝日大学　（令和6年9月）
第2回評価者認定講習会：　岩手医科大学（令和6年10月）
第3回評価者認定講習会：　九州歯科大学（令和6年11月）
第4回評価者認定講習会：　日本大学　（令和6年12月）

	第1四半期 4月～6月	第2四半期 7月～9月	第3四半期 10月～12月	第4四半期 1月～3月	合計
開催回数	3	1	3	0	7
講習会受講者数	226	73	216	0	515

前年度未実施の
3大学

・課題別養成者数

（１人が最大５つの課題の認定を取得することが可能）

・医療面接	2433名
・口腔内状態の記録	2405名
・コンポジットレジン修復	860名
・齲蝕罹患資質の除去	856名
・ラバーダム防湿	858名
・支台歯形成	715名
・レストシート形成	713名
・概形印象採得	715名
・手指消毒と手袋の装着	854名
・普通抜歯	854名

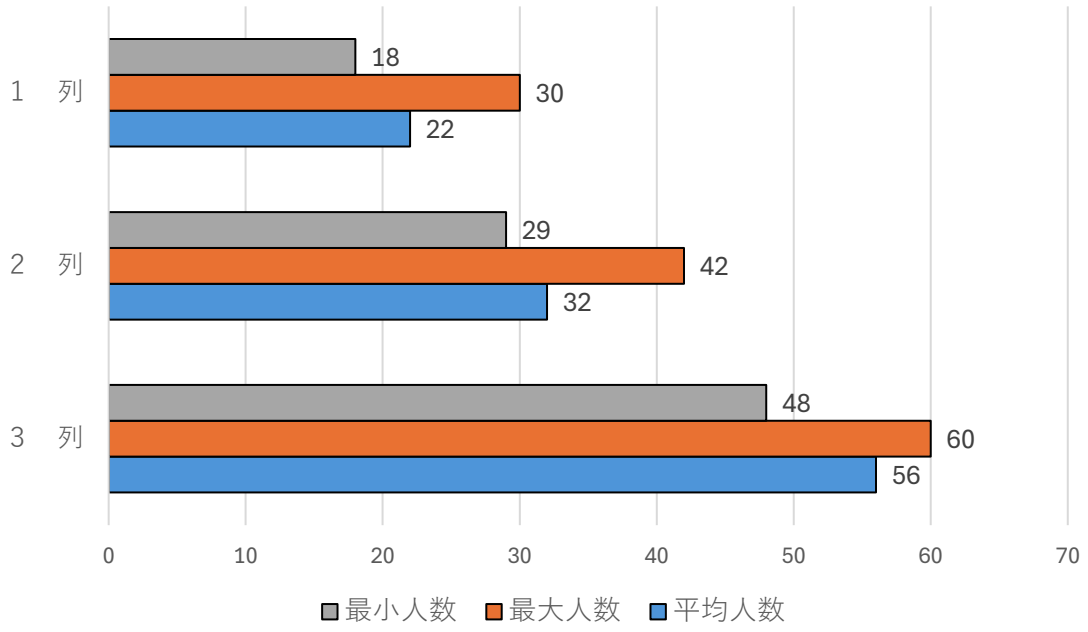
（令和７年３月末現在）

・令和6年度 歯学生OSCEにおいて実際に準備した内部評価者数

	最 小	最 大	平 均
1 列	18名	30名	22名
2 列	29名	42名	32名
3 列	48名	60名	56名

※令和6年度は1課題に1名の外部評価者
（各大学に6名の外部評価者を派遣）

※ 1　列・・・1課題を1試験室で実施
　 2　列・・・1課題を2試験室同時進行で実施
　 3　列・・・1課題を3試験室同時進行で実施



- 評価者認定制度の必要性　（２評価者間の評価のブレ）

評価のブレ(2評価者間)

認定制度以前　認定制度移行期　認定制度以降

		2022年度		2023年度		2024年度	
		2022.1月－9月		2023.7月－2024.2月		2024.6月－2025.2月	
		級内相関<0.4 得点率<0.9	評価 項目数	級内相関<0.4 得点率<0.9	評価 項目数	級内相関<0.4 得点率<0.9	評価 項目数
医療面接	急性	**0**	23	**0**	31	**0**	31
	慢性	**0**	23	**1**	30	**0**	30
検査	口腔内状態の記録	**1**	8	**0**	16	**0**	17
共通	ラバーダム	**2**	15	**0**	18	**0**	18
	概形印象採得	**2**	17	**2**	18	**2**	18
保存系	う蝕除去	**1**	15	**2**	16	**0**	16
	コンポジットレジン	**2**	12	**1**	16	**1**	16
補綴系	支台歯形成	**1**	16	**2**	18	**2**	18
	レストシート	**3**	15	**2**	18	**1**	18
口外系	抜歯	**4**	14	**2**	21	**1**	21
合計		**16**	158	**12**	202	**7**	203
率		**10%**		**6%**		**3%**	

すべて認定評価者

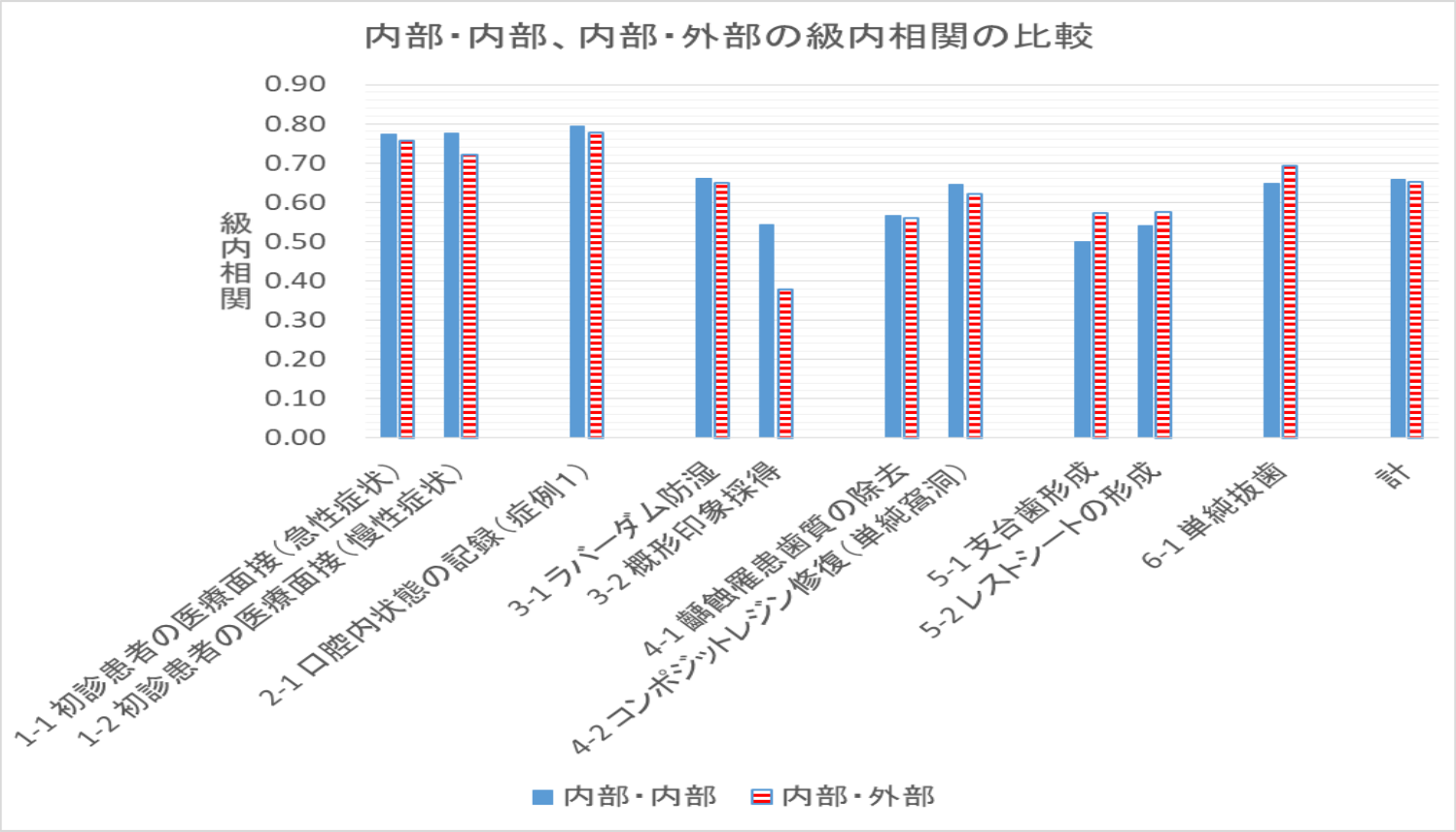
2評価者間の評価のブレが生じる評価項目割合が減少している

→ • 評価基準の標準化が適切に行えていることが示唆される
• 評価者認定制度が有効に機能していることがうかがわれる

内部・内部、内部・外部別評価の級内相関の平均値の比較

対象：2024年度試験　5名以上の受験者を評価したペア

解析方法：内部・内部と内部・外部に分類し、各課題別に評価の級内相関を求めた。



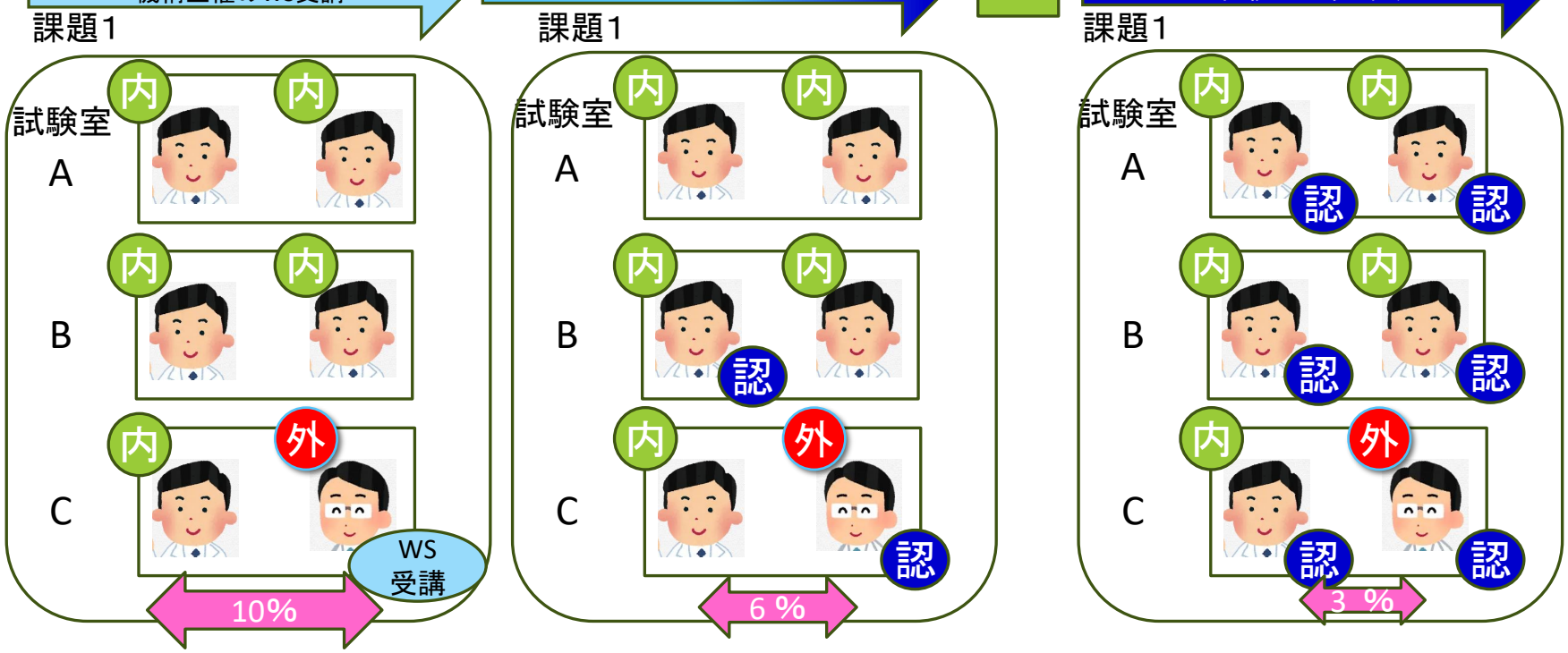
<u>評価者の組合せ（内部・内部と内部・外部）による評価のブレは、1課題（3-2概形印象採得）を除いて生じていない</u>

OSCEにおける評価者の認定基準の推移のイメージ

・評価者養成の取組の充実
・認定を受けた者が評価すること
（公的化後の共用試験に関する意見）

共用試験公的化

令和4年度	令和5年度	令和6年度
外部評価者のみ 機構主催のWS受講	一部の評価者 全国統一基準で認定	全ての評価者 全国統一基準で認定



同一試験室内で、同じ生徒を評価する2評価者間の評価のブレが生じる項目数が減少

1名の受験者を2名の評価者で評価

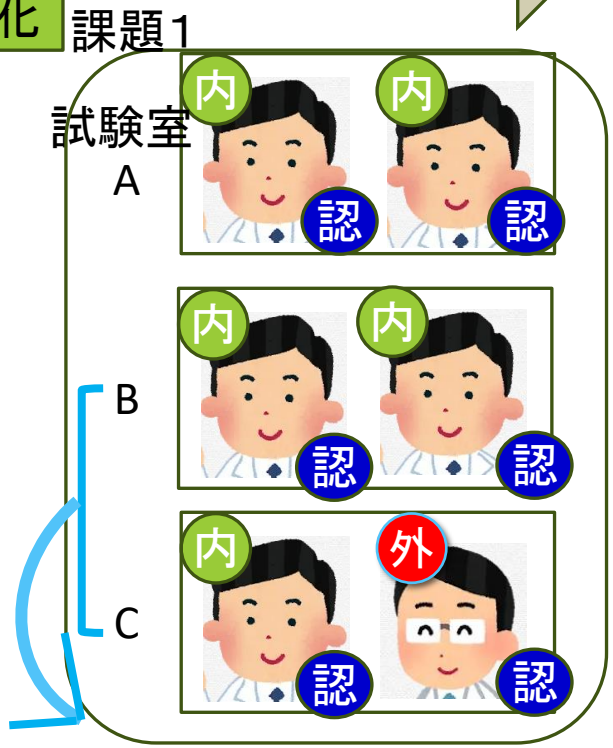
1名の受験者を
2名の**認定**評価者で評価

OSCEにおける外部評価者配置の推移のイメージ

共用試験公的化

令和6年度

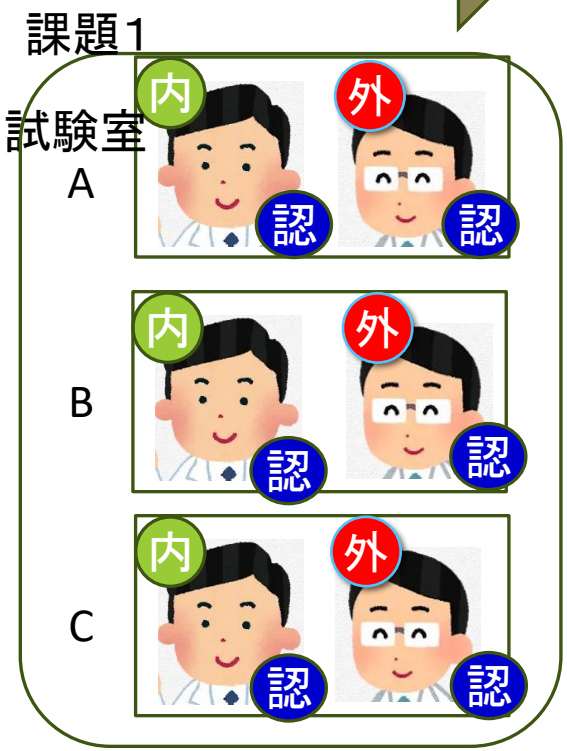
各課題に1名



内部-内部と内部-外部で
評価に差はみられなかった

令和7年度（実施中）

各試験室に1名
（休憩時等は必須ではない）



［外部評価者休憩時は、
内部-内部もあり］

- 各課題に1名の外部評価者の配置例

評価者のローテーション例（2列　外部評価者1名）

試験室1						試験室2				試験室3				試験室4			
A列			B列			A列		B列		A列		B列		A列		B列	
受験生	評1	評2	受験生	評1	評2	評1	評2	評1	評2	評1	評2	評1	評2	評1	評2	評1	評2
1	外	内2	31	内1	内3	内4	内1	内5	外	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3
2	外	内2	32	内1	内3	内4	内1	内5	外	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3
3	外	内2	33	内1	内3	内4	内1	内5	外	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3
4	外	内2	34	内1	内3	内4	内1	内5	外	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3
5	外	内2	35	内1	内3	内4	内1	内5	外	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3
6	外	内4	36	内1	内5	内4	内3	内5	内2	内4	内5	内1	外	内4	外	内1	内5
7	外	内4	37	内1	内5	内4	内3	内5	内2	内4	内5	内1	外	内4	外	内1	内5
8	外	内4	38	内1	内5	内4	内3	内5	内2	内4	内5	内1	外	内4	外	内1	内5
9	外	内4	39	内1	内5	内4	内3	内5	内2	内4	内5	内1	外	内4	外	内1	内5
10	外	内4	40	内1	内5	内4	内3	内5	内2	内4	内5	内1	外	内4	外	内1	内5
11	内2	内5	41	内3	内4	外	内2	内1	内3	内2	内5	内3	外	内2	外	内3	内5
12	内2	内5	42	内3	内4	外	内2	内1	内3	内2	内5	内3	外	内2	外	内3	内5
13	内2	内5	43	内3	内4	外	内2	内1	内3	内2	内5	内3	外	内2	外	内3	内5
14	内2	内5	44	内3	内4	外	内2	内1	内3	内2	内5	内3	外	内2	外	内3	内5
15	内2	内5	45	内3	内4	外	内2	内1	内3	内2	内5	内3	外	内2	外	内3	内5
16	内2	内1	46	内3	外	外	内5	内1	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3	内4
17	内2	内1	47	内3	外	外	内5	内1	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3	内4
18	内2	内1	48	内3	外	外	内5	内1	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3	内4
19	内2	内1	49	内3	外	外	内5	内1	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3	内4
20	内2	内1	50	内3	外	外	内5	内1	内4	内2	内1	内3	内4	内2	内1	内3	内4
21	内4	内1	51	内5	外	内2	内5	内3	内4	外	内1	内5	内4	内5	内1	外	内4
22	内4	内1	52	内5	外	内2	内5	内3	内4	外	内1	内5	内4	内5	内1	外	内4
23	内4	内1	53	内5	外	内2	内5	内3	内4	外	内1	内5	内4	内5	内1	外	内4
24	内4	内1	54	内5	外	内2	内5	内3	内4	外	内1	内5	内4	内5	内1	外	内4
25	内4	内1	55	内5	外	内2	内5	内3	内4	外	内1	内5	内4	内5	内1	外	内4
26	内4	内3	56	内5	内2	内2	内1	内3	外	外	内3	内5	内2	内5	内3	外	内2
27	内4	内3	57	内5	内2	内2	内1	内3	外	外	内3	内5	内2	内5	内3	外	内2
28	内4	内3	58	内5	内2	内2	内1	内3	外	外	内3	内5	内2	内5	内3	外	内2
29	内4	内3	59	内5	内2	内2	内1	内3	外	外	内3	内5	内2	内5	内3	外	内2
30	内4	内3	60	内5	内2	内2	内1	内3	外	外	内3	内5	内2	内5	内3	外	内2

※　少なくとも１回は受験者が外部評価者に評価されるように配置してください。外部評価者、内部評価者が列間を移動して評価を行う配置としてください。

（３列　外部評価者1名）

試験室2			試験室3			試験室4			試験室5			試験室6		
A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C	A	B	C
	外					外					外			
	外					外					外			
	外					外					外			
	外					外					外			
	外					外					外			
					外			外					外	
					外			外					外	
					外			外					外	
					外			外					外	
					外			外					外	
		外		外					外			外		
		外		外					外			外		
		外		外					外			外		
		外		外					外			外		
		外		外					外			外		
外							外				外			
外							外				外			
外							外				外			
外							外				外			
外							外				外			
				外			外						外	
				外			外						外	
				外			外						外	
				外			外						外	
				外			外						外	
	外		外							外				外
	外		外							外				外
	外		外							外				外
	外		外							外				外
	外		外							外				外

外部評価者が列間を移動し、各列の公平性を担保する

• 各試験室に1名の外部評価者の配置例

評価者のローテーション例（各列　外部評価者1名、内部評価者3名）

2列

受験番号	A列 評1	A列 評2	受験番号	B列 評1	B列 評2
1	外1	内1	31	外2	内4
2	外1	内1	32	外2	内4
3	外1	内1	33	外2	内4
4	外1	内1	34	外2	内4
5	外1	内1	35	外2	内4
6	内2	内3	36	内5	内6
7	内2	内3	37	内5	内6
8	内2	内3	38	内5	内6
9	内2	内3	39	内5	内6
10	内2	内3	40	内5	内6
11	内4	外1	41	内1	外2
12	内4	外1	42	内1	外2
13	内4	外1	43	内1	外2
14	内4	外1	44	内1	外2
15	内4	外1	45	内1	外2
16	内3	内5	46	内6	内2
17	内3	内5	47	内6	内2
18	内3	内5	48	内6	内2
19	内3	内5	49	内6	内2
20	内3	内5	50	内6	内2
21	内3	外1	51	内6	外2
22	内3	外1	52	内6	外2
23	内3	外1	53	内6	外2
24	内3	外1	54	内6	外2
25	内3	外1	55	内6	外2
26	内4	内1	56	内5	内2
27	内4	内1	57	内5	内2
28	内4	内1	58	内5	内2
29	内4	内1	59	内5	内2
30	内4	内1	60	内5	内2

3列

受験番号	A列 評1	A列 評2	受験番号	B列 評1	B列 評2	受験番号	C列 評1	C列 評2
1	外1	内1	31	内5	内4	61	外3	内7
2	外1	内1	32	内5	内4	62	外3	内7
3	外1	内1	33	内5	内4	63	外3	内7
4	外1	内1	34	内5	内4	64	外3	内7
5	外1	内1	35	内5	内4	65	外3	内7
6	内2	内3	36	外2	内6	66	内8	内9
7	内2	内3	37	外2	内6	67	内8	内9
8	内2	内3	38	外2	内6	68	内8	内9
9	内2	内3	39	外2	内6	69	内8	内9
10	内2	内3	40	外2	内6	70	内8	内9
11	内4	外1	41	内7	内5	71	内1	内9
12	内4	外1	42	内7	内5	72	内1	内9
13	内4	外1	43	内7	内5	73	内1	内9
14	内4	外1	44	内7	内5	74	内1	内9
15	内4	外1	45	内7	内5	75	内1	内9
16	内6	外1	46	内2	内5	76	内3	外3
17	内6	外1	47	内2	内5	77	内3	外3
18	内6	外1	48	内2	内5	78	内3	外3
19	内6	外1	49	内2	内5	79	内3	外3
20	内6	外1	50	内2	内5	80	内3	外3
21	内7	内8	51	内1	外2	81	内4	外3
22	内7	内8	52	内1	外2	82	内4	外3
23	内7	内8	53	内1	外2	83	内4	外3
24	内7	内8	54	内1	外2	84	内4	外3
25	内7	内8	55	内1	外2	85	内4	外3
26	内9	内5	56	内3	外2	86	内6	内7
27	内9	内5	57	内3	外2	87	内6	内7
28	内9	内5	58	内3	外2	88	内6	内7
29	内9	内5	59	内3	外2	89	内6	内7
30	内9	内5	60	内3	外2	90	内6	内7

・大学の実施形態に合わせて本資料を参考にしてください。
・他の試験室を含めて、少なくとも１回は受験者が外部評価者に評価されるように配置してください。
・２列以上の場合は外部評価者もしくは内部評価者が列間を移動して評価を行う配置が望ましい。

評価の体制について

（1）認定を受けた評価者の配置について

実施体制

認定制度を開始した令和５年度は、認定を受けた評価者が外部評価者を担当した。
令和６年度は、全ての評価者が認定を受けた。

配置の違いによる評価結果の検討

評価者認定制度施行以前（令和４年）の評価のブレに比べ、認定評価者による評価（令和６年）のブレは減少した（P１４）。

（2）外部評価者の配置について

実施体制

令和6年度は各課題に1名の外部評価者、令和7年度は各試験室に1名の外部評価者を派遣した。

配置の違いによる評価結果の検討

内部・内部、内部・外部別の級内相関の平均値の比較したところ、内部および外部の評価に差はみられなかった（P１５）。

７．認定標準模擬患者について

令和６年度からの共用試験公的化を踏まえ、令和５年度から模擬患者の標準化を図るために、全国共通の基準による認定制度を開始した。

（１）全国29大学を対象とした模擬患者標準化大学担当者ならびに模擬患者標準化担当者の養成のための講習会事業の実施

- 模擬患者標準化担当者認定講習会を5月18日にオンラインにて開催
  29名応募し28名出席、28名合格

- 模擬患者標準化大学担当者認定講習会を5月17日に対面にて開催
  46名応募し全員出席、46名全員合格

（２）標準認定模擬患者の認定講習会の開催ならびに認定試験

認定標準模擬患者の養成状況は以下の通り。

- 令和6年4月までの認定標準模擬患者数

  １次および2次試験*（実地試験）までの合格者数　全292人

  (2次試験未受験者：40人→1次に合格しているが、人数の都合で受験しなかった方等。多くは令和6年度に受験予定。)

- 令和6年度の認定標準模擬患者養成数

  １次試験合格者数　１１１名（不合格者4名）

  2次試験*合格者数　１１１名　　（2次試験未受験者合計：46名）

  令和６年度末の認定標準模擬患者総数　　403名

＊2次試験：機構委員によりOSCEの演技をビデオで後日評価

令和6年度の標準模擬患者の認定について

1. 模擬患者標準化大学担当者ならびに模擬患者標準化担当者認定

模擬患者標準化大学担当者
模擬患者標準化担当者
認定講習会 により認定

模擬患者標準化大学担当者 → 認定 → 認定講習会（対面）

模擬患者標準化担当者 → 認定 → 認定講習会（オンライン）

2. 認定前の模擬患者養成

模擬患者標準化大学担当者が中心

養成

医療系大学間共用試験評価実施機構医療面接WG委員

養成サポート
（1名）

模擬患者標準化担当者

養成

認定前の
模擬患者

講習会と1次試験

模擬患者の団体・グループ・
研究会、大学職員、等

3ステップの練習

シナリオ・想定問答集に対して
十分な読み込みと演技練習・共有

3. 令和6年度 共用試験

模擬患者

演技

受験者

2次試験

撮影

4. 機構による認定

・令和6年度共用試験での演技をもって2次試験とする
・撮影した動画で後日確認して合格者を認定

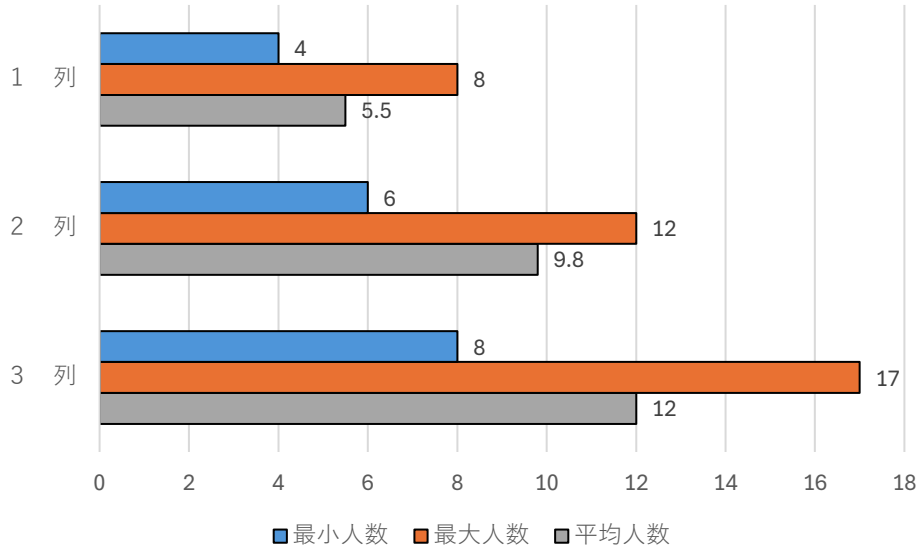
認定標準模擬患者

（4）令和6年度 歯学生OSCEにおける医療面接模擬患者数

	最 小	最 大	平 均
1 列	4名	8名	5.5名
2 列	6名	12名	9.8名
3 列	8名	17名	12名

※令和6年度は1課題に1名の外部評価者
（各大学に6名の外部評価者を派遣）

※ 1　列・・・1課題を1試験室で実施
　 2　列・・・1課題を2試験室同時進行で実施
　 3　列・・・1課題を3試験室同時進行で実施



（5）認定標準模擬患者について

実施体制

・令和５年度から、模擬患者の標準化のために、認定制度を開始した。

・試験の公正な実施のために、標準化された演技を行うことが求められるため、模擬患者は、同一年度内に当該大学の医療面接授業等に参加した模擬患者以外の者とした。

・実施する大学の教員、在学生、大学院生および研修歯科医は模擬患者を担当不可とした。

課題

・模擬患者の年齢層が高い地域があり、5年後、10年後の認定標準模擬患者の確保が困難になる。

・シナリオにあわせた多様な模擬患者が必要であるが、年齢や性別が合わせにくい。

・機構委員による2次試験を受験するための、経費（移動・宿泊等）や時間の負担が大きい。

・医療面接を担当する模擬患者について、十分に確保することが難しく、標準化担当者による講習会を受講し１次試験に合格した者は、OSCEで演技を行い、その様子を撮影した動画での審査を二次試験とした。

８．負担軽減への取り組み

（１）評価者認定について

評価者認定講習会開始に当たっては、これまで毎回、約10名程度の機構委員が現地へ赴き講習を行っていた。令和9年度以降は、講習で使用するコンテンツは原則動画を作成し運用する（説明のための委員の派遣は不要）ことで、機構側の大幅な派遣人員削減が可能となり、会員大学の負担軽減に繋がる。

認定評価者は認定期間が5年ということで更新講習会の受講が必要なこと、さらに新規課題の認定をとるための講習会にも参加することが求められ、時間的ならびに費用的にも負担になっている。

令和9年度より新規認定評価者向け講習会と認定資格更新講習会を共通化すること、併せて新規4課題の講習も同時に行うことを検討している。開催は各大学での単独開催方式とし、各大学の経済的負担も大幅に軽減される見込みである。

（２）標準模擬患者の認定について

標準模擬患者の認定講習会については、希望のあった大学に機構から1名の委員を派遣し、すべての開催地で標準的な開催が可能となっており、対面で行われる試験においても公平性が担保されている。また、各大学へ派遣することで、模擬患者並びに大学の負担は最小限であると考える。さらなる負担軽減を模索するため、試験を含む講習会のオンライン化のトライアルを行ったが、負担軽減という部分では下記の問題が確認され、機構から1名派遣して対面で講習会（試験）を行った方が、模擬患者、大学、ならびに機構の負担が少ない可能性が示唆された。

模擬患者の認定を受けた者に限定すると、機構主催による2次試験が独自に開催された場合、受験のための試験会場への移動の時間的ならびに費用的負担が大きい。またオンラインによる試験では、模擬患者は一般の方々であるため、ディバイスの所有状況が異なったり、デジタルの扱いに慣れていなかったりというばらつきがあり、個々の対応が必要であった。そのため、模擬患者標準化大学担当者（大学側）の負担が増える可能性がある。

８．合理的配慮について

令和6年度における合理的配慮の申請件数は20件であり，その内訳はとおりであった。

CBT関連の申請件数	１件
OSCE関連の申請件数	１８件
CBTとOSCE関連の申請件数	１件

表に令和6年度における各合理的配慮の申請事例についてまとめた。表に示すように合理的配慮の障害の種別としては，①「外傷」，②「肢体不自由」，③「病弱・虚弱」，④「聴覚・言語」，⑤「精神障害」，⑥「色覚障害」，⑦「薬物過敏」の７項目に分類した。また，各障害の種別に，配慮の必要となった試験の種別，配慮申請の理由，本委員会で審議し承認された配慮内容を示した。

障害の種別	試験の種別	配慮申請の理由	申請された配慮内容	審議・承認された配慮
①外傷	OSCE	左足靱帯の損傷	試験室間移動時における配慮	エレベータの使用
	OSCE	左手示指の骨折に伴う固定器装着	グローブ（手袋）の装着における配慮	①衛生的手洗いの際に保護フイルムを巻くこと ②手袋の際に当該指部分を切除した手袋の使用
	OSCE	右膝内側側副靱帯損傷	移動時間の延長の配慮	歩行状況に応じ移動時間の延長許可
	OSCE	左膝関節内側側副靱帯損傷 左膝関節内側半月板損傷うたがい	試験室内外の移動時の配慮	①松葉杖の使用　②エレベータの使用　③移動時の補助者の付き添い ④座位での受験　⑤使用手袋の廃棄場所の設定　⑥最後尾での受験
	OSCE	左示指PIP関節尺側	①切削課題におけるバキューム保持 ②グローブの着脱	①補助者のバキューム保持　②補助者のグローブ着脱支援
②肢体不自由	OSCE	痙性麻痺による下肢機能障害	試験室間移動時における配慮	エレベータの使用
	OSCE	右上肢ジストニアによる書字障害	OSCEにおける書字行為の配慮	補助者に代筆
	OSCE	ギランバレー症候群	①試験室間移動時における配慮 ②手の感覚と握力の低下による試験時間の延長	①試験順番を最後にすること　②各試験室の試験時間の延長 ③補助者のサポート　④立位・起居の補助
	CBT	腰椎椎間板ヘルニアに伴う脊柱管狭窄症	右脚外側部の疼痛症状の配慮	疼痛緩和のため試験室内におけるクッション使用
③病弱・虚弱	OSCE	肥大型心筋症 心室細動 S-ICD植え込み後	試験室の移動時における配慮	エレベータの使用
	OSCE	重症筋無力症	①タービンバーの着脱（評価項目外） ②印象材撤去時の補助など筋力を要する状況	①補助者のサポート　②症状の発現を避けて午前中の受験　③座位での受験 ④移動における座位での待機
	OSCE	喘息	喘息発作時の配慮（吸入器・薬品の持参・使用など）	吸入器・薬品の持参許可
④聴覚・言語障害	OSCE	難聴	①試験室内での補聴器使用の許可 ②タービン使用時の補聴器の着脱の許可	試験時の人的対応を条件とした補聴器の使用許可
	OSCE	両側高音部難聴	声による指示への配慮	①はっきりした声による指示　②指示内容の聞き取りを確認
	OSCE	吃音	医療面接時間の延長	①医療面接の試験時間　②最後尾の受験
⑤精神障害	OSCE	神経症の疑い	タービンバーの着脱（評価項目外）	補助者のサポート
	CBT・OSCE	心的外傷ストレス	発症時における服用薬の所持・服用	試験時の人的対応
⑥色覚障害	CBT	色覚異常	色覚異常補正眼鏡の使用	使用の許可
⑦薬物過敏	OSCE	ラッテクスアレルギー	アレルギーに対応したグローブ（手袋）の使用	ラッテクスフリーグローブ使用の許可
	OSCE	ラッテクスアレルギー	アレルギーに対応したグローブ（手袋）の使用	ラッテクスフリーグローブ使用の許可

９．異議申立てについて

令和6年度の異議申立て内訳

- 異議申立て数　12件（7大学）　CBT 12件、 OSCE 0件
- 異議申立てがあった試験　CBT本試験 ２件、 CBT再試験 10件
- 回答書の内訳　異議申し立てに該当しない 1件（CBT本試験）
  当初の試験結果どおり　11件

１０．不正・逸脱行為対応について

令和６年度の不正・逸脱事案の対応状況

- 不正事案については、０件
- 逸脱事案については、OSCE関連３件
  （課題責任者資格の未取得２件、OSCE課題内容等の学会発表投稿１件）
- 注意喚起事案は、OSCE関連3件（実施大学作成実施要項の不備3件）